

国立病院機構 新潟病院

医療・福祉・教育を同時進行で提供
成長発達を支援し、可能性を伸ばす

新潟病院の特徴と

【Post NICU】の役割

佐藤…2014年に新病棟「こどもととなのための医療センター」を開設。難治性神経筋疾患、重症心身障害児(者)の診療・福祉を担い、地域の二次救急にも対応しています。「柏崎特別支援学校」(小・中・高等部)が隣接しており、小児患者の医療・福祉・教育の3つが有機的に同時進行で提供できる全国的にも珍しい病院であり、県外からの患者さんも多くいます。

鈴木…濃厚な医療的ケアが必要で退院できない患者の増加によるNICU病床の逼迫や産科救急問題を解決するために、当院では2009年にNICUの後方支援病棟【Post-NICU】を開設(開設時6床、現在は8床)しました。NICUやPICUでの治療後も濃厚な医療的ケアが必要な子どもを受け入れるなど、自宅で安全・安楽に過ごせる橋渡しの役目を担い、リハビリテーション、療育・教育活動、生活支援などを通じて子どもたちの持つ能力や可能性を伸ばしています。

新潟病院の

【Post-NICU】機能について

鈴木…各種リハビリテーションによって体調の維持・改善に努め、体調悪化時には、大学病院や地域の基幹病院と連携する体制を整えています。子どもたちの教育については、



療育指導室スタッフによる活動や、学齢期には隣接する「柏崎特別支援学校」からの訪問授業も実施。在宅復帰後はレスパイト入院の積極的な受け入れや、当院が運営する「通所支援事業たんぽぽ」「訪問看護ステーションゆきさくら」で対応。「医療的ケア中核病院」として保育園や特別支援学校などで、学校生活上に必要な医療的ケア(人工呼吸器の管理やチェックなど)の支援を実施し、さらに行政とも連携しながら【Post-NICU】機能の充実を図っています。

若手医師へのメッセージ

鈴木…私は元々小児腎臓病を専門とし、大学では透析や移植などに携わっていました。その時、溶血性尿毒症症候群のサッカー少年を担当しました。透析は離脱できたものの、脳梗塞を合併してしまい、新潟病院に転院するときは車いす状態でした。その少年とは当院に入職した際に再会したのですが、CP(脳性まひ)サッカーの日本代表選手として活躍していました。当院でのリハビリや療育を頑張った話を聞いて、「こういう関わりかたもあるんだ」と大きく感動したのを覚えています。“成長を診る”という医療のやりがいや醍醐味をみなさんにもぜひ経験してほしいと思います。

佐藤…人間の価値は「社会にどれだ

け貢献できるか」ではなく、障害者であっても、その存在自体が社会にとって価値のあることです。障害者から学ぶことは多く、私たちが生きる上でのさまざまな価値観に影響を与え、また障害者の自立や社会参加を支援し、その実現を目指すことは豊かな社会づくりにも繋がります。障害者を診ることで、多様な価値観や生き方を理解し、医師としての視野が広がり、自分の人生観にも医師人生にも大きなプラスを与えてくれるでしょう。また、当院ではロボットスーツHAL®など最先端のリハビリの応用や臨床研究にも注力しており、充実のリハビリスタッフによって、生涯発達モデル

(生涯を通して進歩・成長・変化し続ける)の視点を取り入れたQOLを高める“上向きのリハビリ”を提供しています。リハビリの概念が大きく変わる医療もぜひ当院で体感してください。



国立病院機構

新潟病院

住所 〒945-8585

新潟県柏崎市赤坂町 3-52

WEB <https://niigata.hosp.go.jp>

病床数 **350** 床 診療科数 **11** 科

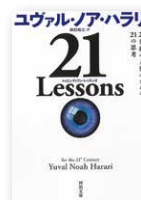
〔診療科目〕

内科、脳神経内科、小児科、外科、整形外科、脳神経外科、リウマチ科、放射線科、リハビリテーション科、歯科(入院患者のみ対応)、心療内科

PROFILE

出身地：新潟県
出身大学：新潟大学
(1989年卒)
宝 物：ピアノ・友人
座右の銘：自由
研修医へオススメの本

21 Lessons
21世紀の人類のための21の思考
ユヴァル・ノア・ハラリ(著)



PROFILE

出身地：東京都
出身大学：新潟大学(1994年卒)
宝 物：家に代々伝わっている日本刀
座右の銘：ケセラセラ(なるようになる)

新潟病院のある街



新潟県柏崎市は、日本海に面した豊かな自然と歴史、文化が息づく街です。美しい海岸線や海水浴場、四季折々の景観が魅力で、紅葉名所や茅葺き屋根の集落など、どこか懐かしい日本の風景が広がります。地元の新鮮な海の幸や伝統の酒造、花火大会など、食とイベントも充実。穏やかな暮らしと観光の両方を楽しめる地域です。